

# 「覇権奪還」 箱根路に挑む

予選会8位で90回目の本戦出場



正月恒例の東京箱根間往復大学  
駅伝競走予選会は10月17日、東京・  
立川市で行われ、8位で予選を通過し  
た中央大学は2016年箱根駅伝へ歴  
代最多となる87大会連続90回目  
の出場を決めた。



(写真提供:産経新聞社)



徳永照選手



渥美良明選手

相馬一生選手

新垣魁都選手

市田拓海選手

鈴木修平選手



予選通過を聞いた町澤選手はうれしさのあまり座り込んだ

午前9時35分、気温15度。会場には霧雨が降っている。スタート地点の陸上自衛隊立川駐屯地に参加49校の精鋭ランナーが並んだ。10位までに入れば、箱根駅伝に出場できる。選手たちはどの顔も引き締まっている。

中大は徳永<sup>しょう</sup>照選手(経4)がチームをぐいぐい引っ張った。「一走入魂」としてした鉢巻き姿の町澤大雅選手(法3)が追う。前回2015年の箱根駅伝1区で快走し、1区の中大記録を塗り替えた。いまや全国区のランナーである。

立川市街地を走り、国営昭和記念公園をゴールとする20kmのコース。

大学名が入った「のぼり」がびっしりコース沿道を占めている。約3万人のファンがそれぞれの選手に力の限りの声援を送るなか、徳永選手は疾走する他大学の外国人留学生に食らいつき、日本人トップの4位でゴールイン。日本人最上位は9月の全日本インカレ1万kmに並ぶ好記録だ。

町澤選手は15位で続いた。胸に伝統の「」マークを付けたチームメイトは、最後の力を振り絞り、応援の声に元気づけられ、必死の形相でゴール。フィニッシュライン周辺は肩で息をする選手が多かった。大学のため、チームのため、応援してくれた人たちのため、全力で走り切った。

## 10時間11分32秒

公園内で開かれた成績発表会。1位・日大から7位・法大までがアナウンスされた。中大選手は横一列に並んで掲示板を見つめている。両手の指を折り重ね、祈るようなポーズの選手もいる。

「8位 中央大学」と読み上げられると大歓声が上がった。町澤選手がひざから崩れるように座り込んだ。両手を高く挙げ、顔をくしゃくしゃにして喜んでいる。

10時間11分32秒のタイムには期待と不安がまじっていた。鉢巻きランナーの姿が、チームの心根のように思われた。中大ファン、関係者か

### 箱根駅伝予選会突破10校

順位	大学名	総合タイム	備考
①	日大	10・6・0	4年連続86回目
②	帝京大	10・7・20	9年連続17回目
③	日体大	10・7・37	68年連続68回目
④	順大	10・7・58	5年連続57回目
⑤	神奈川大	10・8・1	6年連続47回目
⑥	拓大	10・8・36	3年連続37回目
⑦	法大	10・11・3	2年ぶり76回目
⑧	<b>中大</b>	<b>10・11・32</b>	<b>87大会連続90回目</b>
⑨	東京国際大	10・11・41	初出場
⑩	上武大	10・12・4	8年連続8回目

※総合タイムは時間・分・秒

### 中大出場選手12人

選手名	出身校
徳永 照(経4)	倉敷高(岡山)
渥美 良明(経3)	島田高(静岡)
相馬 一生(文3)	村上桜ヶ丘高(新潟)
新垣 魁都(理工3)	那覇高(沖縄)
市田 拓海(法3)	九州国際大附高(福岡)
鈴木 修平(法3)	花巻北高(岩手)
松原 啓介(文4)	八千代松陰高(千葉)
谷 星輝(理工3)	国学院久我山高(東京)
堀尾 謙介(経1)	須磨学園高(兵庫)
竹内 大地(法2)	中京大中京高(愛知)
町澤 大雅(法3)	市立柏高(千葉)
小谷 政宏(経4)	日本文理大附高(大分)
<b>サポート</b>	
村越 吉倫(商3)	白河高(福島)

### 予選会個人成績上位15人

順位	選手名(大学)	分・秒
①	キトニー(日大)	58・20
②	デレセ(拓大)	59・10
③	スタンレイ(東京国際大)	59・14
④	<b>徳永(中大)</b>	<b>59・17</b>
⑤	金森(拓大)	59・21
⑥	山口(創価大)	59・26
⑦	戸田(東農大)	59・34
⑧	塩尻(順大)	59・38
⑨	鈴木(神奈川大)	59・44
⑩	小松(日体大)	59・44
⑪	狹野(日大)	59・51
⑫	足羽(法大)	59・52
⑬	東(上武大)	59・53
⑭	奥野(日体大)	59・54
⑮	<b>町澤(中大)</b>	<b>59・55</b>



松原啓介選手

谷星輝選手

堀尾謙介選手

竹内大地選手

町澤大雅選手

小谷政宏選手

(写真撮影=石川正、小宅崇、佐藤真紀子、中村健彦、藤田智子、藤田菜々美)



あいさつする副将の小谷選手

### 3回も「しっかり」

副将の小谷政宏選手(経4)が選手を代表して、関係者に感謝の言葉を述べた。「皆さん、朝早くから熱い応援をありがとうございました。目標としていた結果には届きませんでしたが、8位で本戦に進むことができました」「本戦ではどん欲にシード権を狙って、久々にシード権を取りたい。これから一つひとつの練習をしっかりとこなし、本戦にしっかり合わせて、しっかり戦えるチームにして、もう一回臨み直したいと思います」

らも「あ〜、よかった」「ほっとしたよ」との声が漏れた。

シード権を失い、予選会に回って3年連続突破。今回も不安視する前評判をはねのけて、箱根の出場権をつかんだ。

関係者らが集まった報告会では、選手が一人ひとり紹介された。徳永選手はレース後も半袖だ。町澤選手は長袖をたくし上げている。

燃えたぎった心で「しっかり」という言葉を3回、口にしました。彼自身は過去2回、5区の山上がりを経験している。難所のコースでは順位が大きく入れ替わる。心に期すものがあるのだろう、マイクを持つ手に力が入っていた。

徳永選手は夏の合宿後、右足<sup>ひこつ</sup>腓骨を痛めた。練習を再開できたのは10月に入ってから。「こんなに走れる

とは思いませんでした」とびっくりしたように振り返った。負傷欠場の主将・藤井寛之選手(経4)も戦列に戻ってくる。



浦田監督

浦田春生監督は「盛大なる応援をしていただき、ありがとうございます。他大学の強豪と競える選手も出てきています。箱根駅伝で上位進出できるよう、これから2カ月間、頑張っていきます」と話した。

あすから、いや、この夜から箱根駅伝に向けた練習が始まる。町澤選手が目を見開いて、チーム目標を代弁した。「総合5位です」。シード権奪取、名門復活へ期待が高まってきた。

#### 中大の箱根駅伝 年度別成績 (最近10年間)

年	総合	往路	復路
2006	8	3	14
2007	8	14	5
2008	7	10	8
2009	10	11	6
2010	4	4	4
2011	6	8	6
2012	8	12	6
2013	記録なし		
2014	15	17	11
2015	19	10	19

#### 第92回箱根駅伝シード校

順位	大学名	出場回数
①	青学大	8年連続21回目
②	駒大	50年連続50回目
③	東洋大	14年連続74回目
④	明大	8年連続58回目
⑤	早大	40年連続85回目
⑥	東海大	3年連続43回目
⑦	城西大	13年連続13回目
⑧	中央学院大	14年連続17回目
⑨	山梨学院大	30年連続30回目
⑩	大東大	4年連続47回目

※順位は91回大会の成績

#### 活躍続ける中大OB

予選会9位に入り、創部5年目にして初の出場権を得た東京国際大。総監督の横溝三郎氏(76)は1964年東京五輪陸上3000<sup>メートル</sup>障害代表、伝説の中大6連覇のメンバーだ。監督の大志田秀次氏(53)は86年アジア大会(ソウル)陸上1500<sup>メートル</sup>優勝。中大コーチ時代の96年に母校を32年ぶりの総合優勝に導いた一人。東京国際大の大学本部は埼玉県川越市。駅伝部の拠点は坂戸市。



胴上げされる大志田秀次東京国際大監督 (写真提供:産経新聞社)



#### ■上位10人で競う

すべての選手が一斉にスタート。各校14人の登録選手のなかから12人までが出場し、上位10人の合計タイムで競う。上位10校が本戦の出場権を獲得する。